



豊かな自然と地元の人と共に、 生徒の自立を温かく見守る

NPO 法人ゆずりは学園

学園長 沓名 和子さん 理事長 沓名 智彦 さん

愛知県田原市にある NPO 法人ゆずりは学園は、不登校などを抱えた小学生から大学生の支援を行うフリースクールだ。さくら国際高等学校・中京学院大学附属中京高等学校といった、通信制高校と提携し、サポート校の役割も兼ねている。

今回は山と海に囲まれたゆずりは学園田原校で、生徒たちに「パパさん」「ママさん」と慕われる沓名智彦理事長と沓名和子学園長の夫妻にフリースクールを始めるきっかけや同校での取り組みについて伺った。

やんちゃな子たちの居場所づくり

理事長 現在のゆずりは学園の前身にあたる「池の原フリースクール」を開校するまで、私たちは教員をしていました。もう 20 年以上前のことですが、当時は今よりも荒れている子が多く、警察にお世話になる子もいたのです。私と学園長で生徒を警察から引き取りに行ったことが、子どもたちの支援を始めるきっかけでしたね。

その後、私たちは教職から離れ、自宅をフリースクールとして開放することを決めました。自宅を教室に改装する際、仕事もせず昼間にぶらぶらしている若い子や、暴走族に入っている、所謂やんちゃな子たちに「お弁当あげるから」と言って、手伝いをしてもらいました。敷地内の森に入って竹を切って運ぶ作業など、肉体的に大変な作業では、すぐ逃げてしまう子が多かったですね。それでも、なんだかんだ言いながらも、同じように昼間に暇そうにしている仲間の子を

連れて再び手伝いに来てくれることもありました。やはりどんな子でも自分の居場所を求めているのかな、と感じていましたね。

フリースクールを開校してから現在まで、家庭内で暴力を受けている子など、さまざまな事情をもつ子どもや、その家族を見てきました。家庭に恵まれなかった子どもたちには、私たちがその子の家族となり、「パパさん」「ママさん」として育てています。家族から食事をあたえてもらえない子もいましたので、その子たちには毎日おにぎりを食べさせ、ときには家族の方も呼んで食事会をすることもありました。

1 人の人間を育てていくのはとても大変ですが、居場所をなくした子どもたちの将来さえもなくなってしまうことには代えられません。

社会とつながり、たくさんの人の 考え方に触れさせる

理事長 池の原フリースクールを開校した当初は、先ほどのお話にも出た、所謂やんちゃな子の割合が多かったのですが、現在の生徒たちを見ていると、ひきこもりの傾向がある子も多くなってきているように感じます。

やんちゃな子は仲間意識が高く、人と交流する力など、生きる力が強い子が多いのですが、ひきこもりや、不登校の子たちは他人との交流が不足していることがほとんどです。

でもそれは、たまたま、その子の通っていた学校の先生や友達と人間的に合わなかったため、不登校やひきこもりになってしまい、結果、他人との交流が途絶えてしまっただけです。学校の先生の間には、生徒から人気があり、先生たちの間でも人望のある、スーパーマンのような先生がいるかもしれませんが、誰しもがその先生とい関係構築のわけではありません。家族とさえも打ち解けられない場合もあります。ですが、やんちゃな子が自分の居場所を求めていた

ことと同じように、どんな子でも人とつながりたいという気持ちは持っているのだと思います。

私たちは不登校を抱える子を育てていくには、学校や家庭に限らず、社会にあるさまざまな考えをもった人と触れ合うことが何よりも大切だと思っています。

本校では、通信制高校を卒業するまでのサポート的な役割はもちろん、最終的に生徒が自立できるように、学校外部の人と交流するためのイベント・活動を積極的に行っております。毎年、三河海岸一帯の清掃をする「里海ビーチクリーン」というイベントでは、トヨタやアイシン AW といった企業の従業員の方々に参加していただき、一緒に砂浜を延々と歩いてゴミ拾いを行っています。清掃のあとに一緒にカレーを食べるなど、親睦を深めています。(株)DENSO の方には学園祭の準備や、会社見学などにもご協力いただいでいて、生徒が親や学校の先生以外の社会人と交流する貴重な機会をいただいています。



毎年開催される里海ビーチクリーン活動

また、ゆずりは学園では、社会への自立支援として、高校在籍中のインターンシップ体験を行っています。東三河近辺の各企業の協力を得て、さまざまな業種の仕事を直接体験することで、会社に入社する際の不安軽減を図っています。愛知県の青年就労支援事業もしており、実際に一緒に働く人や職場の環境に慣れることで、就労への自信につなげたいと思います。

地域の企業のほかにも全国ボランティア NICE